



「目輪煌」 三尻中学校だより

学びづくりは人づくり

学校教育目標 ・思いやりのある生徒 ・自ら学ぶ生徒 ・進んできたえる生徒
『あいさつ』と『歌声』の響く学校 「ワーク・フォー・ザ・スチューデントズ」
「Motion & Emotion for Solid Academic Ability !」

4月の予定 注意 感染症対策のため変更あり

4月		
1	金	春季休業(4月1~7日)
2	土	
3	日	
4	月	部活動顧問紹介
5	火	
6	水	
7	木	準備登校・諸準備
8	金	前期始業式・入学式
9	土	
10	日	
11	月	対面式・安全点検・身体測定(1・3年)
12	火	部活動説明会 部活見学 身体測定(2年・特支)
13	水	生徒会の日
14	木	登校指導 部活見学②
15	金	全校朝会(学委任命) 離任式 新旧理事会 会計監査
16	土	
17	日	
18	月	A 週時間割開始 部活見学③
19	火	部活動仮入部① 全国学力・学習状況調査(国数理)
20	水	生徒朝会(委員長任命)
21	木	部活動仮入部② 歯科検診(特・3年・2-12)
22	金	部活動仮入部③ PTA総会資料印刷19:00
23	土	PTA総会資料綴じ込み9:00
24	日	
25	月	部活動仮入部④ 尿検査1次
26	火	部活動仮入部⑤ 尿検査1次
27	水	部活動本入部 耳鼻科検診(全学年)
28	木	PTA総会、学級懇談会・部活懇談会、 制服リサイクル、第1回学校運営協議会
29	金	昭和の日
30	土	

5月

1	日	
2	月	開校記念日
3	火	憲法記念日
4	水	みどりの日
5	木	こどもの日
6	金	前期人権旬間 第1回市教研主任会(13:30~)
7	土	
8	日	
9	月	

祝 第75回 卒業式挙行 令和4年3月16日(水)

祈念すべき三尻中学校第75回卒業式が挙行されます。本年度も、コロナ禍で学校行事の実施に際し、様々な制約が生じ、保護者の皆様そして何より卒業する生徒諸君には御迷惑をかけていることが、大変心苦しい思いです。既にお知らせしました保護者の方々の入場定数では、各家庭「2名」までとしましたが、県教委等の方針で式場内は「1名」とさせていただきます。(詳細は、後日連絡いたします。)御理解と御協力をお願いいたします。

また、**当日1・2年生は臨時休業**として、家庭で過ごすことになっております。

なお、誠に恐縮ではありますが、当日の交通手段では御不便をおかけします。保護者用の駐車場が用意できませんので、宜しく願いいたします。当日の式典を、職員一同楽しみにしております。3年生の旅立つ姿を、今後もそっと見守ってまいりたいと思います。

三尻中3年生スナップ



熊谷市立三尻中学校 校長 黒澤 正之

いよいよ、令和3年度も終わりの時を迎えます。2月末には、3年生が大きな試練の一つ、高校入試の山を無事越えました。3月16日(水)には卒業式が、そして25日(金)には1・2年生の修了式が挙行されます。「光陰矢の如し」の言葉のように、時の流れの速さを楽しみ感じ季節になりました。

中学校の庭先は、蠟梅の黄色い可憐な花卉と共に厳かで気品のある香りが漂っています。そして「三尻の杜」では、桜の花と梅の花が競うようにして蕾を膨らませています。沢山の花芽を付けた白梅は、一足先に花卉が顔をのぞかせています。この後、日一日と春の日差しをいっぱい浴びて、杏やプレーン、アーモンドやリンゴ、梨やミカンも順々に花を咲かせてくれるでしょう。その自然が織りなす世界に私たちは魅了され感銘を受けることでしょう。

しかし、この2年、私たちをはじめ全国の中学校では、コロナウィルスの影響が学びの質を大きく変化させてしまいました。生徒の皆さんは長期休業を余儀なくされ、友達と顔を合わせることもできず、外出の制限さえも加えられました。当たり前の様にマスクを付け、大きな声で話すことも口を開けて笑うことも憚られるようになり、学ぶこと以前に、まず生きること、生き抜いていくことそれ自体に制約を受けることになってしまいました。

私たちの生活の土台である学校では、今後主たる教育スタイルとして進められようとしたグループ学習などの「顔を合わせ議論を交わし、お互いに学び合う学習スタイル」が敬遠されてしまいました。コロナ感染症は、私たちの学び舎に、新たにオンラインによる学習の便利さをもたらしてくれましたが、やはり、私たちの真の学びには、コミュニケーションを土台とした学習スタイル、つまり「顔を向き合わせ、目と目を合わせ、表情を心で感じ取りながら学習に生かしていくこと」がいかに大切であるかを改めて気づかせてくれたように思います。

今回のパンデミックにより、私たちの社会生活も大きく変わりました。これまで街で通り過ぎる人とも自然に挨拶を交わしていたことも、哀しいかな、当たり前のように避けられるようになってしまいました。それにも増して、コロナウィルスの変異株が私たちを急襲し、エンドレスではないかと思われるような感染症の猛威にさらされました。

歴史をひもとくと、かつて流行したペストは、当時の欧州の人々に、来世の幸せを念じさせ、禁欲的で慎ましい生活を促しました。その結果、人々の心は、宗教に精神の安住を求め、生活の中に祈りを浸透させることとなります。ところが、その教えを実践しようとした人々は、一斉に教会に集まり祈りを捧げたことで、更に感染拡大を悪化させた歴史があります。皮肉なことに、ペスト流行による祈りが、かえって宗教から人間を解放させることに繋がってしまいました。

今回のコロナの感染拡大は、人間を中心とした価値観を打破させる人間至上主義の限界を知らしめました。私たちは、未知のウィルスの世界を自ら招き入れ、その手で災いを生じさせてしまったようです。ペスト流行の断末魔が、私たちに人間中心の生活を目覚めさせたように、今回の新型コロナウイルスが人間中心とした生活の限界を、私たちと私たちの社会に知らしめたように思います。

これから私たちは、表面的にはこれまでと違った生活、新しい生活を余儀なくされるでしょう。ただ、その新しい生活は、自然と共生し持続可能な社会、人間の持てる全ての叡智を結集させ、生き抜いていく社会のほかは、選択肢がないということ気付かせてくれました。そのための最大にして最高の手段こそ、私たちの知脳をどう生かしていくか、つまり、その生き抜く根本土台こそが、教育の力に他ないということを示しました。今後は、未知なる教育力に更に祈りを込め、来たるべき令和のルネサンスに期待しようと思います。

苦境下、皆様方の御理解と御協力に心より感謝申し上げます。

